

2020年5月3日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

イザヤ書 51 章 4 節
ルカによる福音書 8 章 16～18 節
「どう聞くべきか」

<ともし火>

ともし火は、闇を明るく照らすためのものです。

たとえば停電になったら、今ならわたしたちは懐中電灯をつけます。懐中電灯を持って来るのは、暗い中で明かりが必要だからです。せっかく灯りを用意したのに、それを隠したり、ベッドの下に置く人はいません。

イエスさまは、「ともし火をともし、それを器で覆い隠したり、寝台の下に置いたりする人はいない。入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置く。」と話されました。

それはそうだな、当たり前だな、という内容です。

さて、イエスさまはどうしてこんな話をされたのでしょうか。

イエスさまは前回のところから「神の言葉をどう聞けばよいか」ということを語っておられます。8章1節には「イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた」とありました。イエスさまは、「神の国」、つまりイエスさまによって神のご支配が実現する、という救いの良い知らせを、多くの人々に宣べ伝えておられました。イエスさまのもとには十二人の弟子たちや、従った人々、また一行に奉仕する女性たちがおりました。神の言葉を信じ、従い、イエスさまと共に生きるようになった人々です。

そしてイエスさまはこれらの弟子たちに、「神の言葉」をどのように聞けばよいか、ということをお教えされたのです。

前回は、「種を蒔く人」のたとえでした。イエスさまは、神の言葉の種を、わたしたちに蒔き続けて下さっています。しかし、落ちた土地によって、実らない種と、百倍実る種がある、と言われていました。

イエスさまは、神の言葉、告げられている神の国は、秘められている、と言われます。神の国は、わたしたちにとって理解を超えている、理性や知識では把握できない、神さまの御業だからです。ですから、ただ聞いただけでは、その神の言葉を理解できず、どこかへ置いてきてしまったり、失くしてしまったりします。

でも、弟子たちのように、イエスさまの許にいて、イエスさまのみ言葉を聞き続ける者たちには、神の国を悟ることが許される、と言います。イエスさまと共に歩んで行くことで、その神の言葉を、神のご支配を体験し、味わい、確かなものにされていくのです。弟子たちは何度もつまずいたり、転んだり、倒れたりします。でも、イエスさまが共にいて下さるなら、イエスさまによって、神の言葉によって、何度でも赦され、起こされ、新たにされてい

くのです。恵みの中で生かされ、弟子たちは「良い土地」とされていくのです。そこに、百倍もの実りが約束されています。

だから、イエスさまは弟子たちに、「立派な善い心で御言葉を聞き、守り、忍耐しなさい」と言われました。それは、何か立派な人になれとか、努力して頑張りなさい、ということではありません。種に、神の言葉そのものに、実りをもたらす力があるのですから、聞いた御言葉をしっかりと受け止めて持ち続け、神さまの力に信頼して、期待して、必ず与えられる百倍の実りの時を、忍耐強く待っていなさい、ということです。

そして、今日はその続きなのです。「ともし火」もまた、「神の言葉」を表しています。

「神の言葉」は、ともし火のように、覆い隠されたりするものじゃない。ともし火は、入って来る人に光が見えるように、燭台の上に置くものだ。だから、「神の言葉」もまた、隠されないで、すべての人の目に見えるようにされるものだ、ということです。

イエスさまは、続けてこう言われました。17 節「隠れているもので、あらわにならないものはなく、秘められたもので、人に知られず、公にならないものはない。」

神の言葉は、誰もが見えるところに置かれ、必ずあらわになるのです。イエスさまが語られたことは、必ずすべての人に知られ、公になる。救いは必ず実現し、神の国はいつか必ず完成するのです。前のたとえを借りるなら、百倍の実を結ぶ時が必ず来る、ということです。

「神の言葉」が実現し、すべての人に知られることは、ともし火を誰にでも見えるように置くくらい、当然のことだ、とされています。力強い約束です。

でも一方で、こういう風に言われるということは、逆に今は、神の言葉、神の国は隠されている。秘められている、ということが言われているのです。

<隠されている>

今、わたしたちは聖書を通して「神の言葉」を聞いています。イエスさまの十字架と復活の御業によって、救いは実現し、神のご支配はすでに始まりました。

でもこれは、世界中の人々に公にされていて、誰もが知っていることではありません。まだ、隠されているのです。神の国はイエスさまが来られ、十字架と復活の御業を成し遂げて下さったことによって始まりました。でもまだ、完成していません。それは終わりの日、イエスさまが再び来られる時に完成するのです。

だから現に、「神の言葉」が語られているのに、イエスさまが罪を赦し、恵みのうちに置いて下さる、わたしたちと共にいて下さる、と語りかけられているのに、世界の誰もがイエスさまを信じて受け入れているわけではありません。

それに、教会に集っているわたしたちも、神の言葉を、イエスさまの救いの知らせを聞いて信じたはずなのに、また疑ったり、揺らいだり、不安に思ったりしてしまうことがあります。神の言葉が、神さまご自身が、隠されているように、秘められているように思うことがあるのです。それに、世に生きているわたしたちは、まだ復活に与っていません。救いの完

成の時を、信じて待っている状態なのです。

わたしたちは、この世界に体を持って生きていて、苦しみや悲しみ、また喜びや楽しみを感じています。体の五感で色々なものを見て、聞いて、感じて、この世の中を把握して、理解して生きています。そこで感じる、生きる中での痛みや、苦しみや、悩みは、とても具体的で、現実そのもので、わたしの存在を揺るがします。死は、やはり強烈な力を持っています。わたしたちは、そんな目に見える現実には捕らえられず、見えない神さまのこと、聞いたイエスさまの救いのこと、与えられた恵みのこと、見つめることが出来なくなってしまうのです。神の言葉が、覆われ、隠されてしまうのです。

<知らせて下さる方>

でも神さまは、わたしたちがそんな風に感じたり、理解したりできるすべてを超えて、すべてを支配しておられるお方です。わたしたちが実感できるから、神さまがおられるのではありません。わたしたちの感覚や、思いや、理解を超えて、神さまはおられ、生きて働いておられます。

苦しみや悲しみが取り去られないのは、見えない神さまが本当はおられないから、ではありません。また、苦しみのどん底にまで神さまの手が届かないのではありません。

神さまは、わたしたちの苦しみや悲しみをわたしたち以上に知っておられ、御子イエスさまは、それをわたしよりもずっと低い底から、引き受け、担い、支えて下さっているのです。

わたしたちが神さまに疑問を問いかける時。嘆きを叫ぶ時。隠された神さまのご支配は本当にあるのですか、秘められたご計画はどうなっているのですか、と求めて祈る時。わたしたちは、十字架に架けられたイエスさまを示されます。この方ご自身の十字架という言葉によって、神さまはわたしたちへの思いを、御心を、語りかけられておられるのです。

それは、父なる神さまが、ご自分の御子イエスさまの命をわたしたちに与えるほどに、わたしたちを愛して下さっている。愛するわたしたちのために、イエスさまが、わたしたちの苦しみも、悲しみも、痛みも、罪も、死も、すべてを受け止めて下さっている、という言葉です。

イエスさまこそが、神さまの秘められたご計画を、わたしたちに明らかにして下さった方です。わたしたちは、神さまに問いかける時、疑問をぶつける時、いつでも十字架のイエスさまに立ち帰らされるのです。イエスさまの十字架にこそ、神さまの御心が秘められており、神さまの愛が示されているからです。

だから、わたしたちは、神の言葉であるイエスさまを見つめ、この方が共にいて下さることを見つめ、語りかけて下さっている神さまの愛にとどまるように。そして、救いを実現して下さった神さまの力を信じて、希望を持つようにと、語りかけられています。

イエスさまの許で、み言葉を聞き続けることによって、わたしたちには秘められた神の国を、イエスさまのご支配の確かさを、少しずつ知らされて行きます。そして、将来の救いの

完成も、復活の約束も、まことに確かなこととして、待ち望むことが出来るのです。

「神の言葉」がすべての人に知られ、公にされるのは、イエスさまが再び来られる、世の終わりの日です。それが、救いの完成、神の国の完成の時。神さまのご支配が、すべての人に明らかにされる日です。

これは必ず実現する確かな約束です。ともし火がテーブルの上に置かれるように、神の言葉は、神の国は、終わりの日に必ずあらわにされ、すべての人に知らされ、実現するのです。

「だから、どう聞くべきかに注意なさい。」だから、わたしたちは、神の言葉を、確かな信頼をもって、心から期待して、希望をもって聞くべきなのです。

<持っているもの>

そうすると、最後の一節の意味も分かってきます。

「だから、どう聞くべきかに注意なさい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っていると思うものまでも取り上げられる。」

神の言葉は、神さまの救いは、神さまが働いて下さり、神さまが実現し、神さまが完成させて下さるものです。そのことを信頼し、期待し、希望をもって聞くのです。そうすれば、いつかそのことは、わたしたちの想像を遥かに超えた、素晴らしい豊かな実りとして与えられます。驚くべき救いの完成に与ることが出来ます。これは、イエスさまの約束です。

神の言葉を期待して持っているなら、それは必ず期待通りの、いや、それ以上の、豊かな実りが待ち受けているのです。

でも、もし神の言葉を、斜に構えて、期待せずに聞くならば。あるいは、神の言葉を自分の都合の良いように解釈するならば。あるいは、救いは自分の力で実現するものと思っているならば、「持っていない人は、持っていると思うものまでも取り上げられる」と言います。

それは、神さまが与えて下さろうとする救いではなくて、自分の望む救いや、希望を持っているからです。あるいは、神さまの言葉に信頼せず、自分の力に期待し、頼って生きているからです。そこに、救いの実現はありません。

しかもそれは、自分の思いを、自分の望みを、神の言葉だと思い込んで持っているのかも知れません。でも、それは神の言葉ではない、まったく違うものなのです。終わりの日に、まことの神の救いが実現する時には、そのことに気付かされることでしょう。

「持っていない人は、持っていると思うものまでも取り上げられる。」のです。

だから、わたしたちは、語られた神の言葉を、神さまの御心を、神さまのご計画を、しっかりと受け止めるべきです。自分の好き勝手に受け取ったり、扱ったりするのではなくて、神さまが御言葉によって働いて下さることを信じて、そして、神さまが救いを完成下さることに信頼して、復活の希望を期待して、聞くべきなのです。そして、神の言葉を、時が来るまで大切に持っているべきなのです。

でも、神さまは、中々そうできない、弱いわたしたちの心も、よくご存じです。揺らぎやすく、疑い深く、すぐに神の言葉を手放してしまいそうになります。

だから、わたしたちはこの世にあって、同じ神の言葉によって集められた、同じお一人のイエスさまに結ばれた、教会という群れの中に置かれています。同じイエスさまを信じ、弟子とされた兄弟姉妹と共に、イエスさまの御言葉を聞き、交わり、イエスさまが確かにその中心におられ、生きて働いて下さることを、確かにされていくのです。教会の群れの中で、共にイエスさまの御言葉を聞き、共にイエスさまに祈り、共に復活の希望を見つめて、信仰を強められていくのです。

教会では、聞く神の言葉の「説教」で、神さまの御心やご計画、約束を聞くことが出来ます。また、目に見える神の言葉の「聖餐」で、わたしたちがイエスさまの十字架の出来事によって確かに救いに与っており、イエスさまの体の一部とされていること。そして、終わりの日の天の食卓に招かれていることを、食べて、飲んで、体で味わい知ることが出来ます。

そうして、神の言葉は、確かなものとして、期待すべきものとして、わたしたちに語り続けられているのです。

だから、わたしたちは、御言葉に頼り、福音を信じ、従っていくのです。この苦しい時にあっても、わたしのために、わたし以上の苦しみや痛みを味わわれ、わたしのために、死の恐れも、死そのものも引き受けて下さったイエスさまが、それほどの愛をもって、確かに共にいて下さること。決してわたしたちの現実が、罪や、不安や、恐れや、死に支配されているのではなく、復活のイエスさまの命の中に生かされ、神さまのご支配の中に置かれていることを、確信していくことが出来るのです。隠されたもの、秘められたものを、神さまのもとで、神さまによって、少しずつ知らされていくのです。そして、それは必ず、終わりの日にははっきりと知らされます。

この神の言葉があるからこそ、確かな約束があるからこそ、わたしたちは、聖霊によって目を開かれ、まさに神の言葉をともし火として、暗闇の中でも絶望せず、救いの完成の時に向かって、安心して、確かな足取りで、希望のうちに歩いていくことが出来るのです。

そして、その神の言葉を、まだ知らされていない人々に、良い知らせとして、闇を照らす光として、確信をもって告げていくことが出来るのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

イエスさまを通して、あなたはわたしたちに永遠の命に至る道を示して下さいました。救いを告げ知らせ、光を照らして下さいました。しかし、わたしたちは自分の思いや、世のことに目を、心を覆われて、すぐに見えなくなってしまう。

どうか、あなたが与えて下さったみ言葉を、イエスさまを、わたしたちがしっかりと受け止め、信頼し、期待し、確信をもって、持ち続けることが出来るようにして下さい。

あなたがいつも語りかけて下さっている愛を、十字架と復活のイエスさまに示された愛を聞き、その愛に留まる者とならせて下さい。

そして、終わりの日の希望を、神の国の完成を、確かなものとして待ち望み、与えられている日々の歩みを、御言葉に照らされつつ、感謝して歩んで行くことが出来ますように。

そして、この光を、告げ知らせる者として下さいますように。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン

あなたがた一同と共にあるように。アーメン